

★浪江町視察報告（2015年7月19日）

「RAINBOW～虹の架け橋～」は大阪の防災意識を向上させる活動に合わせて、「みちのくの会」（浪江町より堺市に避難されている方々）を支援する活動を行っています。実際に福島の実情を知らずして支援はできないという大畑舞花代表の思いに、いずみ市民生協が賛同していただき、実現しました。しかしながら、現在の浪江町は【避難指示解除準備区域】・【居住制限区域】となっており、未成年の健康被害も考えられるため、メンバーは二本松にある浪江町役場を表敬訪問し、思いを伝えました。また、RAINBOWの活動に賛同していただいた方々の協力で作成した、【千羽鶴】と【祈望のキャンドル】は吉川裕子さん（みちのくの会代表）や田中さん（浪江町出身）の案内で顧問の奥田が代表して浪江町の視察と合わせて、慰霊碑へ奉納しました。

浪江町に行く道中

2015年3月に全線開通となった常磐自動車道を通り浪江ICに向かう道中、高速道路には放射線量を表示する案内板がいくつも立っていたが、最大の放射線量を表示していたのが、南相馬市周辺を走行していた案内板「5.2 μ Sv/h」であった。案内をしていただいていた田中さんによると「高校生の私の娘を浪江に連れて行くときは、この高速を通らずに遠回りして二本松市の方から入ることにしている。」と子どもの健康被害を考えると高速道路が開通したり、避難解除に向けて進んでいたりしているとしても本当の復興にはまだまだ遠いと感じさせられた。



（浪江ICの案内板）

浪江町（権現堂【避難指示解除準備区域】）周辺

吉川さんのご自宅周辺（浪江駅周辺）をバスで案内いただくと、5年前の震災当時にタイムスリップしたように感じた。地震で倒壊したガードレールや家屋がそのままの状態になっていたり、橋がつぶれたままになっていたり、信号も機能していなかったり、と震災当時の様子を今のなお、見ることができた。しかし、5年の年月を感じさせるようにアスファルトの間から雑草が生え、ガレージを覆い尽くしていたり、田んぼに木が生えていたり、道をイノシシがあるいたり人の手入れが届かないことが一目でわかった。

また、いたるところに検問所があったり、立ち入りできない地域があったり、さらに道路のいたるところに除染したあと処理できずに放置された、黒い袋にいれられた土壌やヘドロが無数にあったことなどからも復興という言葉さえ想像できなかった。



（倒壊したままの商店）



（雑草が生い茂る家屋）



（機能していない信号）



（検問所）



（除染後の土壌が入った袋）



（草が生い茂った線路）

吉川さんご自宅（震災当時からそのまま）

ガレージが雑草で覆われ、玄関がどこかも分からない状態であった。さらに、玄関に置かれていたものは散乱し、下駄箱は当時の津波の影響か水分を含んで大きく曲がったままになっていた。建物自体はそれほど地震の影響は感じられなかったが、自宅の中は多くのものが散乱し、足の踏み場の無い状態だった。リビングダイニングの天井から備え付けの押入れの中の一つが空っぽの状態になっていた。吉川さんによると「ここには去年までは大切なものをしまっていた。おそらく、この1年の間に泥棒に入られたのでは」とのこと。この5年の間に他にも多くのものを盗まれたそう。田中さんによると「除染に訪れた業者が盗みに入り逮捕されたことがあった」と、地震や放射線だけでなくたくさんの被害にあっていくことが悔しくてたまらなかった。さらに、ご自宅の中には娘さんの結婚式の写真やお孫さんのお宮参りの写真など吉川さんにとっての宝物もまだ、持ち出せずにあった。吉川さんが震災前の普段の生活に戻れる日は果たして来るのだろうか。考えたくはないが、そのような考えを持たざるを得なかった。



（雑草が生い茂ったガレージ）



（食器などが散乱したキッチン）



（ネズミが巣を作る2階）

東日本大震災慰霊碑（浪江町請戸）

海にほど近い請戸では、1階が津波で流され、鉄筋がおき出して2階だけが残ったままの住宅がそのまま残されているなど、震災から5年たったとは思えない状態であった。今でも車や船などのガレキが多く残されており、ごみを一か所に固めただけで、ガレキの撤去さえままならない状態であった。

慰霊碑にはロウソクや線香などが供えられていたが、多くのゴミが絡まりついており、人の手入れがあまりされていないのが感じられた。時間も限られていたため、多くの事はできなかったが、目についたゴミを取り除き、RAINBOWの活動に賛同していただいた方々の協力で作成した、【千羽鶴】と【祈望のキャンドル】を奉納した。



（1階が流された家屋）



（慰霊碑とガレキの山【写真奥】）



（祈望のキャンドル）

メンバーの感想（顧問の浪江報告を受けて）

- ✚ まだまだ復興には時間や手間、またお金がかかるということがわかりました。未成年であることもあり、浪江町に入ることはできず、動画や報告という形でした、その現状を知ることができなかったことを少し残念に思います。私が視察した場所（いわき市）は緑豊かで、人々が笑顔で取り組み、比較的復興が進んでいる場所でしたので、同じ福島県内でも少し距離が違えば、このように復興に大きく違いがあることを改めて理解することができました。
- ✚ ほんとうに震災から時間が止まったようなところがあり、TVのニュースでは復興が進んでいるという話を聞くが、まだまだ復興できていないということが分かった。
- ✚ 実際の被害もそうですが、まだまだ心の傷が癒えず、心が不安定な方がいると思うので、今回のボランティアのように直接、出逢う機会があれば少しでも楽になってもらえるようにしたいです。